

令和6年度

学 校 教 育 計 画

大阪府立香里丘高等学校
(全日制課程)

目 次

第1 学校教育活動の方針

(1) 学習指導の方針	2
(2) 特別活動の方針	7
(3) 道徳教育及び生徒指導の方針	8
(4) 進路指導の方針	10
(5) 人権尊重の教育の方針	15
(6) 健康管理と指導の方針	17
(7) 学校組織の運営方針	18
(8) 教員の研修方針・研修計画	21

第2 校務分掌

(1) 校務分掌表等	23
(2) 学年主任、ホームルーム担任・副担任一覧表等	24
(3) 生徒会活動、部活動担当者一覧表	26

附記

教育課程実施計画	28
----------	----

第1 学校教育活動の方針

◎本年度の学校教育目標（めざす学校像）

一人ひとりの長所を伸ばし、「考動力」のある生徒、違いを認め合える豊かな人間性を持った生徒を育成する。各々が充実した学校生活をおくる中で、将来の目標を見つけ、自ら果たすべき社会的な役割を自覚できるようにする。

- ① 生徒の可能性を広げ、希望する進路の実現を図れる学校
- ② 一人ひとりに個性を生かした活躍の場があり、互いに尊重し合える学校
- ③ 教職員が一体となって教育活動の充実を図り、地域から信頼され、愛される学校

(1)学習指導の方針

1. 本年度の達成目標

教育力の向上と希望進路の実現

- ① 確かな学力の定着と授業力の向上
- ② 一人ひとりに応じた指導の実施と特色ある教育課程の充実
- ③ GIGAスクール構想への対応
- ④ 3年間を見通したキャリア教育と進路指導

豊かでたくましい人間性の育成

- ① 部活動や学校行事の充実
- ② 基本的な生活習慣の改善・定着
- ③ 国際交流活動等の推進
- ④ 人権や多様性の尊重

開かれた学校づくりと組織力・教員力の向上

- ① 地域との連携
- ② 広報活動のさらなる充実
- ③ 人材育成の取り組み
- ④ 働き方改革の推進
- ⑤ 施設・設備の充実と美化

2. 学習指導方法等の研修計画

- ① 教科・科目の指導方針を明確にし、年間指導計画に基づいた指導を行う。
- ② 教科・科目担当者間の連絡・情報交換を密にし、指導方法の研究を進める。
- ③ 研究授業などを通じて、指導方法の検討・研修を行う。
- ④ 教科主任会を定期的開催し、教科間の連絡・意志疎通を円滑にする。
- ⑤ 生徒各人の個性と適性に応じた適切な指導方法の研究に努める。
- ⑥ 各定期考査終了後、生徒各自の詳しい成績資料を作成し、学年別に学習指導のための連絡会（成績会議）を開き、各教科担当者が一致した認識に基づく指導を行う。

3. 学習指導の改善と留年、退学の防止

教科会議で教材研究、指導方法の研究を進め、改善のための不断の努力を行う。日常的に、学級担任と各教科担当者が連絡を取り合い、特に学習遅進者の指導に十分留意する。

学習遅進者への具体的な方策

- ① 学習の遅れが生じた原因の解明に努め、とりわけ学習への意欲を高めるための指導を心掛ける。
- ② 個々の生徒の学力上の弱点や不十分なところなどを正確に把握し、その克服のために継続的、計画的な指導を行う。
- ③ その際、各教科担任と学級担任との連絡を密にし、生徒の個々の問題についてのきめ細やかな指導を行うように努める。

退学防止策

- ① 「わかる授業」「なじめる学習」、それに生徒理解の深化を図るための「心はずむ対話」等の意識が全職員にみなぎり、生徒思いの土壌が根底となる集団作りを日常的に心掛ける。
- ② 学習面はもとより、生徒指導面でも、個に応じた手厚い指導を行うため、年間を通じて各教科や分掌で、下記のような特別な時間を設け、様々な指導の組織化を図っていく。
 - ア. 放課後等日常の可能な時間の追指導
 - イ. 各学期の考査終了後の一定期間の学習指導
 - ウ. 長期休業中の一定期間の学習指導
 - エ. 随時（教育相談として対応）

4. 年間授業日数・時数の確保についての措置

- ① 年間計画立案に際して、授業時数の確保に努める。
- ② 行事等の見直しと精選を行い、授業カットを可能な限り少なくする。
- ③ 曜日毎の日数の多少を防ぐため、適切な曜日変更を行い、バランスをとる。
- ④ 時間割編成の際に出張等による自習時間が生じないように配慮する。
- ⑤ 急な休暇等の自習に備えて、各教科で適切な自習教材を用意する。
- ⑥ 夏季休業中に補充授業を行う。
- ⑦ 全国及び府下の先進的な取り組みの経験に学び、授業日数・時数の確保のための種々の方法の研究・検討を進める。

令和6年度 年間授業日数（予定）

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
1年	教科・科目の授業日	14	20	19	12	5	17	21	20	16	17	15	1	177
	学校行事日	2	1	0	2	0	2	1	0	1	0	0	1	10
	計	16	21	11.	17	5	11.	22	20	17	14	15	2	187
2年	教科・科目の授業日	14	20	19	13	5	17	18	20	16	17	15	1	175
	学校行事日	2	1	0	1	0	2	4	0	1	0	0	1	12
	計	16	21	11.	17	5	11.	9	20	17	14	15	2	187
3年	教科・科目の授業日	14	20	19	13	7	17	22	20	16	17	2	0	167
	学校行事日	2	1	0	1	0	2	0	0	1	0	1	0	8
	計	16	21	11.	7	7	11.	9	20	17	14	3	0	175

5. 学習指導

- ① 教科ごとに目標を設定する。
- ② 日々の授業において、予習・復習を徹底させ、学力の確実な定着をはかる。
- ③ 補習・講習を積極的に実施し、学力をさらに増進する。
- ④ 数学・英語での少人数授業、「情報」でのITを推進する。
- ⑤ 授業アンケート・自己診断・公開授業・職員研修等により、教員の指導力の向上を図る。
- ⑥ 国際的な視野を拡大させるため、国際理解教育を進める。

国語

社会生活をおくる上で必要な基礎的言語能力の育成に努めるとともに、豊かな感受性や論理的思考力を養う。また、古典への造詣を深め、伝統的な文化やその心を理解することにより、国際社会での自己のアイデンティティの確立をめざす。

① 今年度の重点

1年 語彙力の育成や古典文法の基礎などの基本事項の学習に重点を置く。

2年 幅広い文章に触れ、読解力を深めることに重点を置く。選択授業ではより高度な学習内容を取り入れ、国語力の向上と充実を図る。

3年 1・2年時に学習した内容をより深めるとともに、社会人として必要な国語的素養を身につけさせることに重点を置く。選択授業では、入試を意識した講座も設け、実践力を養う。

1年次より読書指導や作文指導を随時取り入れ、学校での基本的学習を踏まえた上でより発展的な学習に自主的に取り組めるような姿勢と力を養う。

地理歴史・公民

小・中学校の学習の成果の上に立って、公民・地理・歴史の各分野において、相互の関連に配慮しながら、より専門的な学習を行う。日本および世界の社会の状況や歴史についての正しい認識をもたせ、国際社会に主体的に生きる民主的・平和的な国家・社会の一員としての必要な自覚と資質を養うとともに、現代の社会において、市民としての正当な権利を行使するうえで主体的に行動できる人間を育てる。

① 今年度の重点

(日本史) 日本の歴史的発展過程を国際的視野に立って学習することにより、その個性的な特色と世界的普遍性を学ばせ、日本の将来のあり方を考える。

(世界史) 世界の歴史事象に関する基本的事項を理解させるとともに、歴史発展についての認識を深め、現代に生きる展望を持たせる。

(地理) 現代世界における異文化理解と地球的課題を、地域性を踏まえて認識させる。作業や体験的な学習を通じ、地理的な物の見方や考え方を身につけさせるとともに、わが国が国際社会の中で果たす役割を考える。

(政治経済) 現代における政治・経済・国際関係などについて理解させ、公正な判断力を養い良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

数学

① 今年度の重点

数学的な論理的思考法、記号、演算、図形的把握などについて、基礎概念の理解の徹底をはかる。

② 方法

- ・典型的な事例を通じて本質の理解をはかる。
- ・適切な課題等によって、自ら演習に取り組む機会を多く設ける。
- ・「数学Ⅰ」においては、少人数授業によってきめ細かい指導を行えるようにする。

理科

① 今年度の重点

自然現象や法則を正しく捉え、科学の基礎知識を身につけることと、科学的な見方や考え方を養うことを理科の重点課題としている。このために、実験・観察を通して生徒の主体的な取り組みを導き出すとともに、土台となる正しい基礎知識（中学校での学習内容等）の復習も随時取り入れていく。

- (物 理) 物理的現象の法則性や仕組みを知るだけでなく、物理的なものの見方・考え方を体得し、さらにより高度な問題解決のための科学的能力を高める。
- (化 学) 日常生活と物質のかかわりを重視し、実験・観察を展開することにより、化学的に見る態度・能力を高める。
- (生 物) 実験・実習をできるだけ取り入れながら、生命現象の基本概念の育成を図る。
- (地 学) 宇宙および地球の歴史の理解を深めるとともに、自然を観察し自然から学ぶ態度を育成する。

英語

① 今年度の重点

英語のReading・Writing・Listening・Speakingのすべての能力を高める。生徒による主体的な言語活動を促進するために、3年間を見通したカリキュラムを編成し、学習指導、辞書指導、NETとのteam-teachingを少人数クラスで実施するなど、創意工夫を凝らした授業展開を実施する

保健体育

体育・保健の見方・考え方を通して、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することをめざす。

① 今年度の重点

(体育)

1年次では香里丘体操を中心に体ほぐしから始め、運動を通して体の調子をを整えるとともに基礎体力の向上をはかる。2年次～3年次ではチーム対抗ゲーム等を実施する中で仲間との協力する資質や責任ある態度を育て、技能の習得をめざす。体育委員が中心となった生徒主体の活動も行い、生徒同士で教え合うなどのグループ学習なども取り入れる。

(保健)

個人の健康は集団の健康問題と密接に関連することを踏まえ、現代社会と健康、安全な社会生活、生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりの内容を学びながら、自他の健康について考えることができるように指導する。

家庭

家庭の営みと仕組みを自然科学・社会科学の両面から正しくとらえ、現状の問題点を認識させる。さらにこれを改善していくために必要な知識や技術を総合的に習得させ、家庭生活や地域の生活を充実・向上させる能力を育成する。また、一人の人間として自立し、社会の一員にふさわしい豊かな人間関係を築くことができる態度を養う。

① 今年度の重点

各分野において基本的な知識や技術を習得した上で、自らの日常生活をよりよいものへと改善すべく、自ら考え、判断し、行動する力を養う。

芸術（音楽・美術・書道）

授業での体験を通して、演奏するための基礎的技術や豊かな感性を養うとともに芸術的な能力の伸張を図り、情緒を豊かにする。

① 今年度の重点

学習指導要領の芸術科の目標にある『芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う』ことをすべて目標とするが、特に『生涯にわたり芸術を愛好する心情を特に育てること』に重点を置いて指導する。

情報

情報化が著しく進展している昨今、パソコンやタブレット端末、スマートフォンを手に入れば、どこでも誰でも情報を取得することができ、かつ発信者となることができる。パソコン本体やその周辺機器、ソフトウェアを使いこなすことにより、情報を多様化することができ、参画する社会がより一層豊かなものになる。情報が社会的に重要な価値を握る今日、その情報をいかに扱うかが非常に重要である。

① 今年度の重点

自分の必要としている情報を探し出し、選択できる力を身につけ、収集した情報について真偽を見抜く力をつける。さらに、自分が情報社会の中でその被害者や加害者にならないように、情報処理（モラル）についても正しい知識を身につける。情報処理に必要な表現力、問題解決能力を養い、主体的に情報社会に参画していく。

6. 総合的な教育力の構築

- ① PTA・同窓会と連携を深め、生徒を取り巻く大人が一致して、生徒の健全育成を図る。
- ② 教育コミュニティづくりに向け、近隣の小学校・中学校・地域社会との連携を深める。

(2)特別活動の方針

1. 本年度の達成目標

教科外教育活動を通じて協調・協力の精神を養い、思いやりのある豊かな人間性を育て、心身の健康の増強を図り、自主的、意欲的に責任ある行動のとれる意思強固な人物の育成をめざす。

2. 特別活動の年間指導計画

- ① 1年生の春季・秋季校外学習、2・3年生の春季校外学習、2年生の修学旅行を通じて集団生活の意義を理解し、相互の信頼関係を深めると共に、学校外での生活を体験して人間存在の意味を考えさせる。
- ② 本校における特別活動は、年間の活動計画を立て全体調整を行い、自己理解を深め自己実現のための力をつけさせ、グローバルな視野に立って社会を見る目を養う。
- ③ 毎週木曜6限にLHRを実施し、年間の活動計画を立て全体的調整を行い、各クラスに活動の場を与え、自主性の伸長を図る。
- ④ 毎日放課後有志参加による部活動を実施し、できるだけ多くの生徒を参加させ、職員・生徒の人的ふれ合いを通じて、心身の健全な育成を図る。
- ⑤ 始業式、終業式および全校集会で校長講話等を通じて高校生としての自覚を持たせ、よき校風作りへの指針を与えるようにする。
- ⑥ 生徒会活動の活性化を図り、自主的活動の場を十分に考慮し、健全な育成に心掛ける。
 - ア. 1～3年でブロック団を構成する体育祭などを通じて、本校生としての一体感と人間的きずなを深める。
 - イ. 学校行事に全員が積極的に参加し、準備や運営を通じて生徒の企画力や責任感を養い、集団としての規律、連帯感、協同の精神などを身につけさせる。
 - ウ. 部活動を援助し、一層の活性化を図ると共に活動場所・更衣場所の整備に努め、整備の供給等を推進する。

3. 志(こころざし)学の取り組み

① 学習目標

社会を形成する一員としての自覚を持ち、その責任を果たす生徒の育成を目標とする。そのために基礎的な知識を身につけ、具体的な各活動の中で自ら主体的に取り組むことによって、研鑽を重ね、他の状況下でも活用できる応用力を育む。

② おもな学習内容

- ・進路HRなどを中心とするキャリア教育
- ・人権HRなどを中心とする障がい者理解教育
- ・生徒会行事を通じて自己実現および他者との関わり方を構築する教育
- ・各教科の授業を中心とする国際理解教育、環境教育、自己管理の教育

③ おもな体験活動の内容

- ・校外学習における班別行動の企画立案実行
- ・修学旅行における体験学習、探究学習
- ・香里丘を考えるHRでのディベート
- ・政治的教養を育む授業(模擬投票など)

- ・大学見学会（大学関係者による講演と、オープンキャンパス）

4. 奉仕等体験学習についての年間指導計画

① 特別清掃

校舎内外の清掃美化を全校生徒で行い、生徒会の各委員会の集団と各学級の集団とで組織的有機的に活動する。

② 地域奉仕、通学路の清掃活動の実施

生徒会を中心として、部活動の代表者や有志生徒で、通学路等の清掃活動を実施する。

(3) 道徳教育及び生徒指導の方針

1. 本年度の達成目標

- ① 個人の生命尊重と豊かで明るいバランスのとれた人格の形成に努める。
- ② 生徒指導上の緊急課題には早期対応を図るなど、学習環境の整備に努める。
- ③ 明朗健全な秩序正しい校風の樹立をめざす。

2. 個別指導計画

① 問題生徒の早期発見

中学校・家庭・地域社会及び関係諸機関との連携を強め、生徒の学習・生活両面における実態を的確に把握することによって問題生徒の早期発見に努める。また新たな社会問題（SNSに関する問題、性にかかわる問題等）についても、問題行動防止のための事前指導を実施する。

② 問題生徒の指導

家庭・少年サポートセンター等と密接な連絡をとり、その実態を把握し全教職員が一体となって適切な指導を行う。

3. 集団指導計画

- ① 適時、全校集会・学年集会・部代表者会議等を行い、学校の教育方針、現時点での問題点等を直接生徒に伝え浸透させる。
- ② 毎日授業終了後ショートホームルームを行い、あらゆる機会を通じて教員と生徒の心のふれあいを図り、健全な校風を樹立する。
- ③ 生徒会の健全育成に努める。

4. 道徳教育

自律の精神や社会連帯の精神を養い、また、それらを実践するところまで高めるように努める。指導に際しては教職員の共通理解を深め、日常の生徒指導と並行して行う。全校集会において校長及び生徒指導主事が講話を実施し、ホームルームでは担任が立案し実施する。

5. 生徒指導

- ① 日々の生活にけじめをつけさせ、基本的な生活習慣を確立させる。特に遅刻防止指導については、力を入れて指導する。
- ② 一人ひとりの生徒の個々の状況把握に努め、個に対応したきめ細かい指導を行う。

- ③ 不登校など心に悩みのある生徒に対しては、就学支援委員会やスクールカウンセラーと協調して指導にあたる。
- ④ 生命の大切さや善悪の区別など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を身につけさせるよう、特別活動をはじめ、学校教育全体を通じて指導する。
- ⑤ 部活動の教育的な意義を重視し、現在の活動をさらに活性化する。
- ⑥ 部活動の振興を学校の柱とし、教科学習と両立できるよう指導する。

6. 交通安全教育

- ① 自転車通学は「大阪府自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」に基づき、許可する。
- ② PTAを通じ、地域の理解、協力を得て、全教職員にて通学指導・巡回を行う。
- ③ 通学指導を通して、交通ルール・交通マナーの大切さを学び遵守させる。
- ④ 単車については生徒の命を守り、他人の命を大切にすることを根底に据え、入学時に生徒・保護者にその趣旨を伝え、理解と協力を得るようにする。
- ⑤ 入学前や長期休暇前に、学校の指導方針の文書を、保護者に配付し、在学中特に長期休暇中の生徒の安全指導を依頼する。

7. 学校図書館の利用指導及び読書指導計画

- ① 教職員・生徒の要望を踏まえ、図書の計画的購入を進める。特に学習活動や探究活動に要する図書を重点的に整備する。
- ② 生徒の読書活動の活発化を図るため、新入生への図書館オリエンテーションを充実させ、新着図書の紹介・「図書だより」の発行を行う。
- ③ 図書委員会活動の活性化を進める。日常のカウンター当番に加え、新着図書の登録作業・「図書だより」の発行・ポスター作成・ディスプレイの工夫・「本のポップ広場」への応募など、図書館運営に主体的に関わるよう指導する。

(4) 進路指導の方針

1. 全体方針

生徒一人ひとりの進路実現のため、生徒の興味・関心・適性に応じたきめ細かい指導を行う。また、生徒自らの、進路に対する意識の高揚と進路目標実現のための学力向上に取り組む。

- ① 自分の進路を自ら決定していくための自己理解・自己発見に努めさせ、生徒の的確な把握とその伸長をはかるための適切な指導をする。
- ② 自らの進路を決定していくための動機づけの方策を通じて、生徒の「学び」へのモチベーションを高めさせ、生涯に渡り自ら進んで学ぼうとする態度を養う。
- ③ 将来の職業に対する正しい理解と、望ましい職業観を身につけさせる。
- ④ 年間計画にも続く系統的・組織的な進路指導を協同的に行い、生徒一人ひとりの進路実現に寄与していく。
- ⑤ 3学年を通して適切な進路ガイダンスを系統的に設定する。
- ⑥ 進路に関する情報を進路指導部から教員へ発信し、情報を共有する。また、教員間で進路に関する情報を共有するための機会を積極的に設ける。
- ⑦ 生徒・保護者に向けて学校HPや進路コーナー、2度の進路講演会を通じて進路情報を発信していく。

2. 各学年の目標と計画

《3年次の目標と計画》

1. 方針

基礎力と応用力の充実をはかり、自己の進路実現のために堅実に努力させる。

- ① 生徒自身に将来いかに生活して生きていくかを考える機会を設ける。
- ② ①の目的の為に、どのような進路（大学・短大・専門学校・就職等）があるかに関する情報提供を行う。
- ③ 自ら考える進路について、学校生活とどのように関連づけていくかを考える機会を提供する。
- ④ 家庭における進路に関するコミュニケーションを深めるよう支援する。特に奨学金などの進学資金について保護者にもご理解いただくようにする。

2. 長期的目標

担任による個別面談等を通じて、生徒の進路希望を明確にし、適切な進路指導ができるようにする。その中で、生徒自らが将来に向けて目標を持ち、その達成に向けて正しい努力ができるように導く。

3. 中期的目標

学校案内やインターネットなどの様々な手段で進路情報を得る機会を持たせ、自分が将来進学する学校及び進路先について真剣に考える機会を持つ。

4. 日々の学力向上をめざすアプローチ

- ① 日々の授業を大切にし、復習や課題の提出などを徹底させる。また、学習塾等での準備と学校での学習が両立し、共助関係を築けるように指導する。
- ② 勉強時間確保のために、学校生活だけでなく家庭学習等における時間の有効な使い方を指導する。
- ③ 講習への積極的な参加を促す。
- ④ 各種模擬試験の積極的受験を推奨する。また、事前指導(到達目標などの提示)・事後指導(復習の習慣づけ、解説会など)を綿密に行う。特に試験の解き直しを強く勧めていく。
- ⑤ 大学入学共通テストなどの新しい受験制度に対応できるように、積極的に情報の収集や生徒への指導を行う。

5. 実施概要

	ガイダンス・説明会等	模試
4月	進路希望調査回収 実力考査スタディーサポート 進学希望説明会（大学進学・専門学校・就職・公務員） JASSO 奨学金説明会	小論文模試
5月	実力考査結果返却 JASSO 奨学金書類確認 専門学校ガイダンス 看護受験ガイダンス ベネッセスタサポ分析会 関西外大高大連携（夏期）説明会	全統マーク模試 全統記述模試 関関同立模試

6月	進路講演会 保護者面談	
7月	保護者懇談 大学入学共通テスト説明会① 教員向け大学入学共通テスト説明会 夏期講習 調査書作成	小論文模試
8月	指定校説明会 第1回指定校選考会	全統マーク模試
9月	第2回指定校選考会 指定校決定者説明会 大学入学共通テスト説明会② 大学入学共通テスト「志願票提出」「点検」「発送準備」	全統記述模試
10月	大学入学共通テスト願書発送 確認はがきの配布・確認・訂正対応 面接指導	関西外大特別入試 全統マーク模試 全統記述模試
11月		全統共通プレ模試 関関同立模試
12月	冬期講習 大学入学共通テスト説明会③	駿台共通テストプレ 関西大学実践模試
1月	大学入学共通テスト説明会④ 大学入学共通テスト本番 大学入学共通テスト自己採点	
2月	合格体験記依頼 卒業生のお話を聞く LHR 依頼	

6. 進路HR（予定）

4月 進路説明会

5月 実力考査結果返却

7月 夏期休暇までに出願の手続きを説明
保護者懇談

8月 3年授業開始日に学年集会で進路指導主事からの指導。HR教室で担任から補足説明。

7. 模試等を通じての意識喚起

外部模試を利用し、本番に近い環境で受験するように勧める。また、模試受験の意義が見いだせるように、授業や講習・家庭学習を通じて実力がつくよう、各教科担当者と協力して指導していくと共に、適切な情報提供を心掛ける。

《2年次の目標と計画》

1. 方針

- ① 生徒自身に将来いかに生活して生きていくかを考える機会を設ける。
- ② ①の目的の為に、どのような進路（大学・短大・専門学校・就職等）があるかに関する情報提供を行う。
- ③ 自ら考える進路について、学校生活とどのように関連づけていくかを考える機会を提供する。

2. 具体的な取組

① 長期的目標の設定

・担任による個別面談の実施などにより、生徒の進路希望を次第に明確化していくことで、的確な進路指導ができるようにしていき、生徒自身が将来に向けて正しい努力ができる状態を構築する。

② 中期的目標の設定

・学校案内やインターネットなどの様々な手段で学校を調べる機会を持たせることで、様々な学校に興味を持ち、自分が将来進学する学校について真剣に考える機会を持つ。特に生徒自身が主体的に情報収集活動を行うことができるようにする。
・入試制度の特徴、国公立大学と私立大学の特色の違い等を早期に理解させる。

② 日々の学力向上をめざすアプローチ

・日々の授業を大切にし、復習や課題の提出などを徹底させることで、学校での学習指導を中心とした 学力向上をめざす。
・勉強時間の確保のために、家庭学習等における時間の有効な使い方を指導していく。
・夏期講習や冬期講習への積極的な参加を促す。
・実力考査、校内外実施の模擬試験の積極的受験を推奨する。また、事前指導（到達目標などの提示）・事後指導（復習の習慣づけ、解説会など）を綿密に行う。特に試験の解き直しを強く勧めていく。
・受験意識を早期に構築するため、2年生3学期を受験生0学期として位置づけ、指導に当たる。特に、2月模擬試験の受験を強く意識させる。

【進路指導関連予定】

月	進路行事	その他
4月	第1回実力考査【スタディサポート】	4月～5月春休みのスタサポを活用した生徒面談
5月	進路HR スタディサポート結果返却 スタサポ分析会	
6月	科目選択説明会 PTA 進路講演会	保護者懇談
7月	進路ガイダンス模擬授業 夏期講習	
8月	第2回実力考査【スタディサポート】	
9月	2年進路講演会	進路ガイダンス
10月		
11月	進研模試 進路HR(2学期終了までに)	模試事後指導 スタサポを活用した生徒懇談
1月	進路HR (1/下旬)	
2月	進研模試 (2/上旬)	模試事後指導

《1年次の目標と計画》

【基本スタンス】

- ① 将来いかに生活して生きていくかを考える機会を設ける。
- ② 進路先（大学・短大・専門学校・就職等）に関する情報提供を行う。
- ③ 進路実現と学校生活を有効に関連づけられるよう、自ら考える機会を設ける。

【具体的な取組】

① 長期的目標の設定

- 1：入学時課題作文を基に、担任による個別面談を実施する。進路希望を少しずつ明確化させていき、以後当該目標をベースに進路指導を進める。
- 2：教育実習生や本校卒業生等、進路実現を果たした人物に話を聞く機会を設ける。

② 中期的目標の設定

- 1：大学見学会を足がかりに大学と生徒自身に関わる機会を設ける。

③ 日々の学力向上をめざすアプローチ

- 1：日々の授業を大切にし、復習や課題の提出などを徹底させることで、学校での学習を中心とした学力向上をめざす。
- 2：家庭学習を習慣づけるために、学校生活における時間の有効な使い方を指導していく。
- 3：夏期講習への積極的な参加を促す。
- 4：実力考査受験の意義を徹底させ、加えて模擬試験の積極的受験を推奨する。事前指導（到達目標などの提示）・事後指導（復習の習慣づけ、解説会など）を行う。

【進路指導関連予定】

月	進路行事	その他
4月	第1回実力考査 新入生学習オリエンテーション	生徒面談
5月	進路 HR	実力考査返却
6月	科目選択説明会① 進路 HR	保護者懇談 教育実習生講話
7月	大学見学会、夏期講習	
8月	第2回実力考査、夏期講習、全統記述模試	
9月	進路 HR（進路ガイダンス）	実力考査返却
10月	科目選択説明会②	
11月	進研模試（校内実施・全員受験） 進路 HR	保護者懇談
12月	進路 HR	進研模試返却
1月	共通テスト同日模試	模試事後指導
2月	PTA 進路講演会	

4. 進路指導室及び資料室の活用

進路相談の充実を図るため、資料の収集と整理に努め、生徒が自由に各資料を閲覧できるように進路指導室を開放し、常駐する教職員には何でも相談できる体制をとる。また、進学主担・就職主担を進路指導室常駐とし、組織的進路指導を行うことができるようにする。さらに、進路指導室の掲示物や情報提供体制の整理整頓に努め、より生徒が進路情報にふれやすい環境整備を行う。各入試の過去問題の拡充を行う。特に赤本が発行されていない大学等の情報を整理し、計画的に資料請求を実施する。

大学や専門学校等の担当者が進路指導室に来客した際の情報を進路指導部で取りまとめ、担任団に連絡し、情報の共有を行い、常に最新の情報に基づいた進路指導を学校全体で行う。また、進路指導室常駐の教員が実施した進路相談に関しても、情報を取りまとめ、担任へ連絡し、情報の共有を図る。進路指導部の教員を中心に、府教委が実施する研修はもとより、予備校等が実施

する研究会等に積極的に参加し、最新で正確な進路情報の収集を行うと共に、その情報を学校全体で共有できるよう生徒、保護者、教員へ情報発信を行う。

(5)人権尊重の教育の方針

1. 本年度の達成目標

- ①人権教育の正しい認識と共通理解を深めることを目標に、校内の各分掌・各委員会・各学年との連携を密にし、人権教育推進体制の確立に努める。
- ②自尊感情を高め、豊かな人間関係を構築できるようなコミュニケーション能力を養う。
- ③中学校までの人権教育の実践を踏まえ、本校生徒の実態を把握し、人権教育実践の研究を深める。
- ④教職員と生徒がともに人権問題の正しい認識と理解を深め、一人ひとりを大切にし、人権侵害の起こらない学校をめざす。

2. 各学年の人権教育計画

各学年は独自の状況に応じて3年間を見通し、以下のような項目に留意した計画を立てる。

- ・自尊感情 ・人間関係づくり ・コミュニケーション能力 ・キャリア教育
- ・同和問題 ・SNS ・ネットに関わる問題 ・障がい者教育
- ・拉致問題 ・在日外国人教育 ・性の多様性について・生徒の意識実態の把握と検証

また、生徒の問題行動の中で人権に関わる内容があれば、学校全体として対応できる体制を整える。

3. 各学年の目標

1年の目標・豊かな人間関係を築くために必要な知識、コミュニケーション能力を身につける。

実施時期	形式	内容	資料	備考
1学期	講演	「SNSの危険性について」	講演	
1学期	HR	人権に関するアンケート	府立人権作成アンケートを活用	
2学期	HR	北朝鮮拉致問題に関する人権教育「めぐみ」上映	動画上映	
2学期	講演	性の講演会	講演	

2年の目標

- ・豊かな人間関係づくりに必要なコミュニケーション能力について考える。
- ・命の尊さを理解し、いじめを許さない姿勢を身につける。

実施時期	形式	内容	資料	備考
2学期	HR	いじめについて考える ～必要なコミュニケーション能力～	学年作成資料	

3年の目標

- ・働くことの意味を考える。
- ・アルバイトに関する違法行為を調査する。
- ・労働の場面を中心に、社会生活における権利について考える。

実施内容・年間計画

実施時期	形式	内容	資料	備考
2学期中旬	HR	「ブラックバイト」に関するアンケート	学年作成資料	41期生作成資料をほぼ踏襲
2学期中旬	HR	アンケート結果をもとに『働くことの意味と労働者の権利』について考える		

4. 教職員研修計画

上記目標を達成するため、常に教職員一人ひとりが研修に努めるとともに、下記の点に重点を置き研修を深める。

- ①高校の人権教育の現状と課題を明らかにし、全国のすぐれた経験と教訓に学び、本校の人権教育の実践のあり方を考える。
- ②差別やいじめを許さない人間を育てるため、特に障がいを持つ生徒とともに学び合う実践を通じ、本校の人権教育の実践的あり方を考える。
- ③生徒の基本的な人権を尊重し、生徒が自主的自立的に成長していける教育について考える。

5. 人権教育推進年間計画表

実施予定日	形式	内容
4月	新着任オリエンテーション	「本校における人権教育」
5月	職員会議	本年度人権教育計画決定
	教育実習オリエンテーション	「本校における人権教育」
6月中旬	文化祭注意文書掲示	6月体育祭音楽歌詞チェック 文化祭表現について人権配慮要請
7月下旬	文化祭クラス台本チェック	チェック、訂正指導
9月	文化祭見回り	展示表現点検
12月	職員研修（※全員）	ヤングケアラーに関する研修 「家族のケアを担う子どもたち」
3月	職員会議	本年度人権教育の総括

※週1回（金曜1限）に定例委員会を開催する。

※全員とは事務・技術系職員、非常勤講師も含む。

※校内における

- ・「セクシャル・ハラスメント相談窓口」は、
保健部養護教諭・相談室相談係・人権教育推進委員会委員とする。
- ・「パワー・ハラスメント相談窓口」は、人権教育推進委員会委員とする。

(6)健康管理と指導の方針

1. 本年度の達成目標

- ① 健康管理についての理解と関心を高めるとともに、生徒自身が自分の健康を管理できるようになることをめざす。
- ② 環境や施設の点検と整備を行う。
- ③ 安全確保について細心の注意を払う。
- ④ 生徒保健委員会を育成する。

2. 学校保健安全計画

① 学校保健計画

- ア. 学校保健活動を促進するとともに、環境管理については生活指導の意味も含めて強く推進し、生徒が健全な学校生活・社会生活をおくるために必要な習慣と態度を養う。また、学校三師、教職員、生徒保健委員会の協力のもとに環境や施設の点検と整備に努める。
- イ. 学校保健委員会活動を推進するとともに、学校と家庭との連携を図り、生徒の健康管理に努める。
- ウ. 担任の協力のもとに、精神衛生面の活動に力を入れる。
- エ. 生徒保健委員会の組織育成と具体的活動及びHR活動を推進して、健康管理についての理解と関心を高め、あわせて実践力の向上に努める。
- オ. 疾病の早期発見と、学校三師の協力を得て綿密な事後指導に努める。
また、学校における定期健康診断から、所見が認められた者に対して治療するように指導するとともに、関係教員に連絡し、授業・行事等を配慮する。
- カ. 性教育及び薬物乱用防止に関する啓発教育を横断的に実施する。
- キ. 食中毒、熱中症、感染症の集団発生が起こらないよう関係諸機関との密なる連携を心がけ、予防・対策に努める。

② 学校安全計画

ア. 学校環境の安全管理

定期的に安全点検を行い、施設・設備の安全管理に努め、生徒が学校生活において安全に生活できるよう留意する。

イ. 安全指導

1. 活動及び校外学習等の事故防止のため、顧問及び関係教職員は諸施設、設備の点検と活動場所の安全確保のうえ、使用方法を考慮するとともに、生徒の健康状態を把握し、練習計画、行事計画等を作成する。
2. 特別活動（オリエンテーション・校外学習等）においては、安全確保に努めつつ、生徒の体力向上を図る。
3. 光化学スモッグについては、本校における対策実施要項に基づいて対処する。
4. 災害時の対策は『防犯及び防災計画』による。

(7)学校組織の運営方針

1. 学校運営

- ① 常に全職員が学校の課題を共有し、相互理解を進める。その解決のために運営委員会、職員会議等を有効に活用する。
- ② プロジェクト委員会で、学校経営計画の今年度の重点目標の達成や、喫緊の課題解決のための企画・立案・実施・点検を行う。
- ③ 校長・教頭・事務長・首席との会議を定例化し、中・長期の課題解決の方策を検討・協議するとともに、日常的な課題に対応する。
- ④ 生徒と関わる時間を確保することを意識して、会議等に臨み、ICT活用や時間短縮等工夫する。
- ⑤ 危機管理（事故防止）・安全管理を更に推進する。
- ⑥ 施設・設備の適切な維持管理を図る。
- ⑦ 開かれた学校づくりのため、公開授業を進めるとともに、学校運営協議会を通して外部や地域からの意見を吸収し、Webページやメール配信サービス等を活用し、情報の発信に努める。
- ⑧ 学校説明会、中学校への説明など広報活動を組織的に積極的・強力にさらに推進する。

2. 組織運営にあたって

- ① 校長のリーダーシップのもと、学校組織の一体性を保ちつつ、学校教育をめぐる様々な課題と急速な社会の変化に対応するため、迅速な意思決定により、組織の機動力を高め、効率的な業務運営を図る。
- ② 組織運営においては、PDCAサイクルを導入し、目標管理を徹底する。
- ③ 教育活動や業務は、特定の個人の力量に負うことがないように、業務のシステム化・ICT化などによって組織全体で取り組めるよう工夫する。
- ④ 年間の業務実態や個々の教職員の業務実態を把握し、可能な限り、業務の平準化を図る
- ⑤ 校内組織について、業務を見直し、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。

3. 校内組織と会議

- ① 校務に関する決定は校長の権限と責任のもとに行う。
- ② 課題に迅速に対応しつつ、生徒と向き合う時間を確保するため、会議は極力効率的に短時間で進行。
- ③ 会議の開催にあたっては、目的・時間・案件・説明者を明らかにするとともに、事前に資料等を配付するなどして、会議運営の円滑化と効率化を図る。

4. 人材育成

- ① 校長は、中期的な人事計画を作成し、学校目標の達成に向け、中堅・若手教員の育成に努める。
- ② 人材を育成するにあたっては、日常の業務を組織的に遂行するとともに、校外研修の成果を校内に還元して、組織全体の力量を引き上げることに留意し、学校組織全体の活性化につながるよう努める。
- ③ 授業観察・授業公開・研究授業および生徒による授業評価を活用して、教員の授業や生徒指導における資質向上を図る。

5. 予算

- ① 校長は、中期的目標のもとでの年次計画を踏まえ、学校教育計画の達成のために必要な備品や教材等の確保の優先順位を明らかにした予算編成の基本方針を定め、教職員に周知する。
- ② 校長・教頭・事務長は、月単位の執行状況や予算残を把握し、計画的執行に努める。
- ③ 教頭・首席等のリーダーシップのもと、事務職員と教員の連携を図り、教育活動と予算との関連性について認識を共有化し、コスト意識の涵養に努める。

6. 教育目標の達成及び課題解決に向けて

① 学校運営体制の確立と、開かれた学校運営の推進

新しい時代に対応した学校づくりを進めるために、機動力のある学校組織の構築をめざし、開かれた学校づくりを推進する。

- ア. 広く学校の情報を家庭や地域社会に開示するよう努めるとともに、学校・家庭・地域社会の連携により総合的な教育力の向上を図る。そのため授業を公開し、従来からのプリントでの広報や、学校Webページ等で、生徒の活動の様子や学校の教育情報を伝える。
- イ. 保護者からの徴収金については、適正な事務処理と効率的な執行に努め、保護者への報告を確実に行う。
- ウ. 個人情報の収集・利用・管理について、条例・規則に則り適切に対応する。
- エ. 地域の隠れた人材を講師やボランティアとして招聘するなど、多様な人材の学校教育活動への活用を図る。その場合、「学校支援人材バンク」の積極的な活用をはかる。

② 生徒一人ひとりを大切にす教育の充実

- ア. 生徒の実態や状況を踏まえて、全教職員が一致して指導にあたるとともに、多様な生徒に対するきめ細やかな指導を継続する。生徒の意見に耳を傾け、問題を見逃すことなく対応する。そして、生徒に目標をもたせ、学習意欲の向上と自主的な学習態度の育成に努めると共に、家庭学習など基本的な生活習慣を確立させ、遅刻防止については保護者の協力を得て指導を強化する。
- イ. 中途退学、原級留置の防止を図るため、生徒個々の状況把握に努め、内規の弾力的な運用に努める。
- ウ. 様々な問題を抱える生徒が、順調な学校生活を送れるように、それぞれの課題について検討する。
- エ. 不登校をはじめとして長期にわたって欠席する生徒が増加する傾向にあることから、生徒の状況をきめ細かく観察するとともに、悩みのある生徒に対して教育相談室を開設する。また、スクールカウンセラーの活用など、教育相談機能の充実にも努める。
- オ. 生命の大切さや善悪の区別など、人間としての基本的な倫理観や規範意識などを身につけさせるよう特別活動をはじめ、学校教育全体を通じて指導する。自身の生命を大切にするとともに他人の生命を大切にす教育を計画的に進める。
- カ. 部活動の教育的な意義を重視し、現在の活動が更に活性化できるよう工夫する。

③ 人権尊重の教育の推進

「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」等の関係法令を踏まえ、「人権教育基本方針」及び「人権教育推進プラン」に基づき、更には「人権教育のための国連10年」、改正「男女雇用機会均等法」等を念頭におき、教職員と生徒がともに人権問題の正しい認識と理解を

深めるよう努める。このため、人権教育推進委員会の活動を軸に、人権教育計画を立案し、ジェンダーフリーの意義等の広範な教職員研修を行うことにより、参加体験型人権教育の推進を図る。また、憲法に定められた基本的人権を守り発展させることができる能力の育成を図り、差別や人権侵害を許さない姿勢と態度を身につけさせることをめざす。

① 国際的な視野の拡大と国際社会に貢献する人材の育成

国際化社会に対応した幅広い知識と教養を身につけさせることを目標に、ALTの協力のもとと語学指導に力を注ぐとともに、真の国際理解を進めるための総合的な教育をめざす。国際社会におけるマナー教育を充実させ、国際社会に貢献できる人材の育成をめざす。

⑤ 総合的な教育力の構築

ア. 学校・家庭・地域社会が生徒の育成について共通理解を深めるとともに、相互に連携してそれぞれの役割に基づいた教育機能を高めるよう努める。

イ. 教育コミュニティづくりの形成に向けてPTA活動の活性化に努めるとともに、近隣の小学校・中学校、更に地域教育協議会（すこやかネット）など、地域の諸団体や地域社会との連携を深める。

7. 安全・安心の学校構築のための施設及び設備の管理計画

施設設備の管理に万全を期し、防犯及び警備防災計画に従って、学校の安全確保を図る。

① 施設・設備については、その内部充実と適切な管理に努める。

② 環境美化の指導・清掃の徹底

教職員は、各教室等の管理責任者となり環境の保全・美化にあたる。校舎内の日常清掃については点検等きめ細かな指導に努め、大清掃は年間計画に基づいて実施し、全職員・全生徒の奉仕等体験を通じた学習・交流の場とする。

③ 火災予防とその対策

公共物の管理という重責を自覚し、火災予防には特に万全を期する。

ア. 消火関係機器の点検、校舎内外の可燃物・器具の点検等を定期的実施する。

イ. 各教室等の管理責任者は火気取締責任者となり、常に防火設備を点検整備する。

ウ. 勤務時間外の保安・警備は警備会社があたるので、学校と緊密な連絡を不断に保ち、機敏にして適切な措置がとれるよう対策を講ずる。

エ. 消防署と連携して、実情に即した防災・避難訓練の実施に努める。

④ 危機管理体制の充実

災害及び万一の事件・事故や、生徒及び教職員の感染症や食中毒に対し、すぐに対応できる管理体制を充実する。

ア. 交通安全講習を実施し、交通法規の遵守を図る。

イ. 救急事故に備えて校医等と連絡を密にし、事故発生時には万全の処置を講ずる。

ウ. AEDの配備に伴い、その活用に全員があたれるよう研修等に努める。

エ. 学校における生徒の安全確保に努めるとともに、安全教育の一層の推進を図る。また、安全対策を推進するための体制の整備・充実に努める。

8. 職員の健康管理

- ① 「大阪府立学校職員安全衛生管理規程」に基づいて、安全衛生委員会を設置し、職員の事故防止や健康障害の防止に努める。
- ② 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」「府立学校における働き方改革に係る取組について」等を踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。

(8) 教員の研修方針・研修計画

1. 本年度の重点目標

- ① 府教育センターの研修への積極的な参加の推進
府教育センターや各種研究会等で実施する研修会に積極的に参加し、教員としての資質の向上を図る。
- ② 校内研修の充実
 - ア. 研修参加者を講師とした研修会の開催
研修参加者は、研修報告書を出し、それに基づいた校内研修会を随時開催し、情報の共有を図る。
 - イ. あらゆる場面を通じた研修
各学年担任会・各部会・人権教育推進委員会、更に様々な会議を通して、生徒の掌握、指導方法の研究・実践、指導上の困難点、学習内容の研究、問題点の反省・改善と運営の向上を図る。
 - ウ. 学習指導の研究
 - 1 授業の公開と研究授業
公開授業等を通じて教科の研究授業を行い、相互の研修を行う。
 - 2 教科指導の研究
定期的に教科の打合せ会を開き、教科指導法及び教材の研究を行う。また、教科主任会を随時行って各教科間の連絡・調整を密にするとともに、考査問題作成等についても共通理解を深める。
 - エ. 生徒指導の研究
生徒指導の方法について共通理解を深めるため、研究会や学習会を開く。また、体罰防止や生徒指導上の緊急課題等についての研修をかさね、教職員の共通理解を深める。
 - オ. 評価の研究
シラバスの作成を踏まえ、各教科の指導目標と、それに対応する評価について常に討議・研究を行い、適切な評価とそれに基づく指導が行えるよう努める。また、知識偏重の教育から、生きる力を培い社会の変化に対応できる教育への転換を図るために、新しい学力観及びその評価法の研究・討議を深める。
 - カ. 教職経験の少ない教員の育成（香里会）
教職経験の少ない教員の育成を通じて、OJTが盛んに行われる職場環境を構築する。

2. 実施計画

① 年間計画

時 期	内 容	備 考
4月	・新着任オリエンテーション (新着任教員に対して校内諸規定に関する研修)	校 内
5月	・人権教育計画決定 ・教職員AED講習会	校 内 講師招聘
6月 ～ 9月	・授業公開・進路指導について	校 内
	・職員研修「全教職員対象の研修講座」	講師招聘
	・生徒指導について「行事のあり方」	校 内
10月	・学校評価について	校 内
11月	・授業公開・研究授業	校 内
12月	・職員人権研修	講師招聘
1月	・教職員人権研修の総括	校 内
2月	・1年間の総括と次年度の課題について	校 内

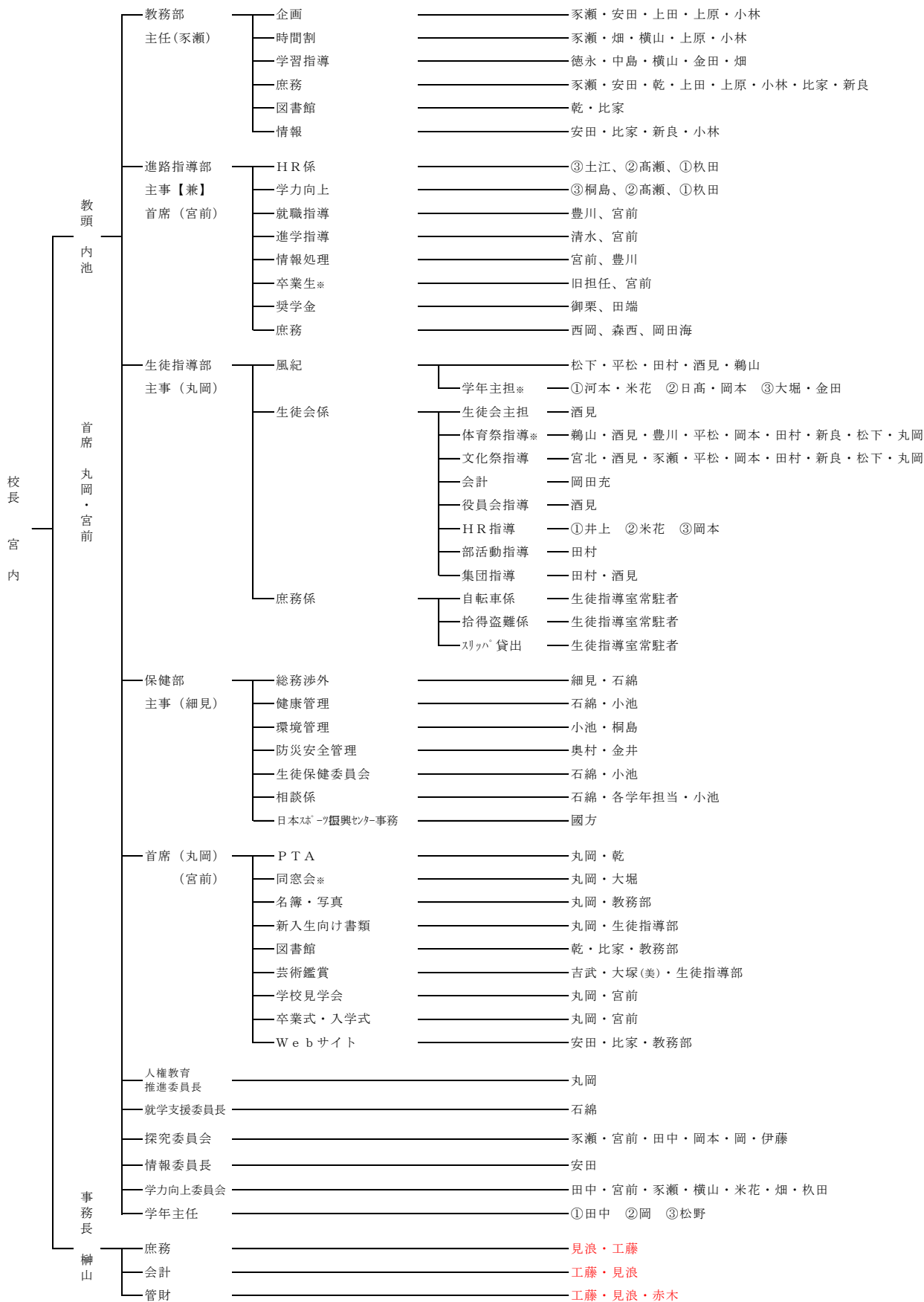
② 香里会

対象教員の時間割上に時間を確保し、定期的を開催する。

第2 校務分掌

(1) 校務分掌表等

1. 校務分掌



※ 分掌所属メンバー以外を含む

2. 各部主任等

主任等の名称	職名	氏名	教科	主任等の名称	職名	氏名	教科
首席	教諭	丸岡 大輔	保体	首席	教諭	宮前 侑介	理科
1年学年主任	教諭	田中 隆文	音楽	保健主事	教諭	小池 浩司	数学
2年学年主任	教諭	岡 篤彦	国語	生徒指導主事	教諭	松下 真二	保体
3年学年主任	教諭	松野 亜矢子	国語	進路指導主事	首席教諭	宮前 侑介	理科
教務主任	教諭	冢瀬 克徳	社会	司書教諭	教諭	乾 実代子	理科

(2) 学年主任、ホームルーム担任・副担任一覧表

	1 年		2 年		3 年	
主任	田 中		岡		松 野	
	担 任	副 担 任	担 任	副 担 任	担 任	副 担 任
1 組	愛須	小池・上田	金田	豊川	畑	宮前
2 組	大堀	岡田(海)・吉武	米花	丸岡	日高	森西
3 組	伊藤	平松	高瀬	清水	土江	西岡
4 組	杵田	宮北	中西	鶴山・小林	柚口	冢瀬・上原
5 組	徳永	田村	横山	岡田(充)・御栗	岡本	奥村・新良
6 組	中島	田端	河本	乾	桐島	安田
7 組	井上	松下・大塚				

令和5年度 各種委員会構成委員一覧

1	運営委員会	校長、教頭、事務長、首席、各学年主任、各分掌長
2	プロジェクト委員会	校長、教頭、事務長、首席、各分掌1名
3	学校保健委員会	校長、教頭、事務長、首席1名、保健主事、養護教諭、保健部教諭、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、PTA役員、生徒保健委員
4	安全衛生委員会	校長、教頭、事務長、首席1名、保健主事、養護教諭、産業医
5	人権教育推進委員会	教頭、人推委委員長、各学年主任、各学年担任1名
6	入試選抜委員会	教頭、首席、教務主任、情報委員長、教務より2名、各分掌長、国・社・数・理・英・(体・芸・家・情)より1名、新学年主任
7	情報委員会	教頭、情報委員長、首席・各分掌・各教科・事務より1名
8	予算委員会	首席1名、主査、各分掌・教科・人推委・情報委各1名
9	食堂委員会 (必要に応じて)	教頭、事務長、首席1名、保健主事、養護教諭、生徒指導主事、学年主任、生徒会担当者
10	教科主任会	教頭、首席1名、教務主任、教務部1名、各教科主任
11	補導委員会	教頭、首席1名、生徒指導主事、学年主任、当該担任 生指部風紀係、(発見者、事情聴取者)

12	いじめ防止対策委員会	校長、教頭、首席、生徒指導主事、学年主任、養護教諭、生徒指導部相談係、人権教育推進委員長、就学支援委員長、当該担任 他
13	部顧問会議	生徒指導主事、生徒指導部主担者、各部代表1名
14	進路指導委員会 (必要に応じて)	教頭、進路指導主事、教務主任、学年主任、進路部3名
15	留学審査委員会 (必要に応じて)	教頭、教務主任、当該学年主任、担任、学年教務
16	教室配置等検討委員会	教頭、首席1名、教務主任、各学年主任、事務より1名
17	カリキュラム委員会	教頭、首席、教務主任、教務部1名、進路指導主事
18	国際交流委員会	首席1名、有志(英語科の教員が含まれるのが望ましい)
19	体育祭主担者会	担外、3年プロリ指導(担任)、部活指導係、生徒会文化祭係、生徒会主担
20	文化祭主担者会	担任外
21	就学支援委員会	教頭、支援教育コーディネーター、保健主事、養護教諭、生徒指導部相談係、各学年主任、その他
22	就学支援委員会学年 部会(必要に応じて)	教頭、支援教育コーディネーター、養護教諭、当該学年主任、当該担任、当該学年保健部(相談係)、その他
23	校内食物アレルギー 対応委員会	校長、教頭、支援教育コーディネーター、保健主事、養護教諭、生徒指導部相談係、各学年主任、その他
24	調査書検討委員会	教頭、進路指導主事、教務主任、3年学年主任
25	オンライン授業検討 委員会	教頭、首席、情報委員長、情報科主任、生徒指導主事、各学年GoogleClassroom担当、その他
26	探究委員会	首席、探究委員長、探究委員、各学年探究担当
27	セクハラ・マタハラ 相談窓口	養護教諭、相談室相談係、人権教育推進委員会
28	パワハラ相談窓口	人権教育推進委員会

(3) 生徒会活動、部活動担当者一覧表

《 生徒会活動 》

- ① 生徒会活動は、生徒の人格の向上と民主主義精神の育成を図るため、学校の指導に基づき、特別教育活動の一環として実施する。
- ② 生徒の立場からよき学校生活の運営に人間尊重と自主自立の精神を持って参加できるよう指導助言する。

《 生徒会年間行事計画 》

月	行 事 名
4 月	対面式・新入生歓迎会、 前期クラス役員選出・各種委員会開催 生徒会前期役員選挙・生徒総会
5 月	体育祭準備、応援練習・体育祭
6 月	文化祭方針決定
7 月	クラブ総会 文化祭クラス発表立案・文化祭準備・夏季休暇中の活動
8 月	文化祭準備・夏季休暇中の活動
9 月	文化祭準備・文化祭 後期クラス役員選出・各種委員会開催 生徒会后期役員選挙・生徒総会
10 月	香里丘を考えるHR
11 月	生徒総会
12 月	クラブ総会
1 月	次年度に向けての準備・計画案作成
2 月	卒業式送辞作成
3 月	クラブ総会・新入生歓迎会準備

部活担当者一覧

※部員数は令和6年5月14日現在

部・同好会		顧問氏名				1年	2年	3年	計	
運動部	陸上競技部	金田	酒見 岡本	愛須 井上	平松 西岡	徳永 岡田充	11	5	7	23
	サッカー部	丸岡	酒見	大塚			23	21	7	51
	女子ソフトボール部	上原	田端	桐島			3	9	4	16
	硬式野球部	河本	米花	田端			25	18	18	61
	ソフトテニス部	大堀 横山	上田	御栗	平松		12	9	12	33
	男子硬式テニス部	畑	中島	宮北	徳永	井上	9	5	3	17
	女子硬式テニス部	杵田					6	2	2	10
	ハンドボール部	岡	宮前	米花	比家	平松	12	11	9	32
	男子バスケットボール部	伊藤	比家	鶴山	小林	小池	13	8	12	33
	女子バスケットボール部	松下					8	5	3	16
	男子バレーボール部	岡田海	土江	石綿	西岡	新良	8	13	1	22
	女子バレーボール部	田村					10	3	9	22
	男子バドミントン部	森西	宮前	土江	奥村	岡田充	13	7	3	23
	女子バドミントン部	冢瀬					16	15	24	55
	卓球部	安田	愛須 小池	奥村	宮北	西岡	4	5	7	16
	剣道部	岡本					0	1	3	4
	水泳部	日高	高瀬	清水			3	6	1	10
文化部	吹奏楽部	田中	松野	國方	大塚	中島	17	10	16	43
	書道部	中島	吉武				0	0	1	1
	軽音楽部	豊川	桐島	國方			35	30	24	89
	美術部	高瀬	上田	柚口			3	5	4	12
	茶道部	乾	中西				4	5	2	11
	科学部	國方	伊藤	岡田充			0	0	3	3
	箏曲部	松野	石綿				2	2	1	5
	文芸部	中西	乾				3	3	3	9
	家庭科部	柚口	清水				5	2	4	11
			合計				245	200	183	628

加入率 1年・・・245/283 86.6%
 2年・・・200/237 84.4%
 3年・・・183/230 79.6%

628/750 83.7%

教科	入学年度 類型 学年 学級数	令和6年度入学生										備考	
		文型				理型				計	計		
		①	Ⅱ	Ⅲ	計	①	Ⅱ	Ⅲ	計				
国語	現代の国語 言語文化 論理国語 古典探究 (学)国語演習 (学)古典演習 (学)現代文演習	2 2 2 3 ② 3 ②			15 17 19 3 3 3 ②	2 2 2 3 3 3 ②			12 12 12 3 3 3 ②				
地理歴史	地理総合 地理探究 歴史総合 日本史探究 世界史探究 (学)日本史演習 (学)世界史演習	2 2 2 ② ② ② ②		4● 4● 4● ② ②	8 10 12 4 6 ② ②	2 2 2 2 2 2 ②		4 6 4 4 4 ② ②			4 4 4 4 4 ② ②	2年次、日本史探究と世界史探究の 両方選択することはできない。 3年次文型、4●の中から1科目選択 2年次、日本史探究または世界史探究を選択 した場合は3年次も同じ科目を選択すること 日本史演習と世界史演習の両方選択 することはできない。	
公民	公共 政治・経済 (学)公民演習		2 2 ②		4 6 ②		2 2 ②		4 6 ②		4 4 ②		
数学	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 数学B 数学C (学)数学総合 (学)数学ⅠA演習 (学)数学ⅡBC演習 (学)数学ⅠAⅡB演習 (学)理系数学	3 3 3 2 ② ② ② ② ② ② ②	4		9 11 13 15 17 ② ② ② ② ② ②	3 3 3 2 2 2 ② ② ② ② ②		4 4 3☆ 3☆ 2 2 2 ② ② ② 2☆ 3△	16 18 18 18 17 17 ② ② ② ② ② ②		16 18 18 18 17 17 ② ② ② ② ②	3年次理型、3☆2☆または3△ を選択すること。	
理科	物理基礎 物理 化学基礎 化学 生物基礎 生物 地学基礎 (学)生物標準演習 (学)化学基礎演習 (学)生物基礎演習 (学)地学基礎演習 (学)物理演習 (学)化学演習 (学)生物演習		2 2 2 2 2 ② ② ② ② ② ② ②	4● 4● 4● 4● 4● ② ② ② ② ② ② ②	6 8 10 12 14 16 ② ② ② ② ② ② ②		2 2 2 2 2 ② ② ② ② ② ② ②		6 8 10 12 14 16 ② ② ② ② ② ② ②		16 18 20 18 18 18 ② ② ② ② ② ②	3年次理型、4□の中から1科目選択 ただしそれぞれの基礎科目を履修している こと。	
保健体育	体育 保健 (学)ライブスポーツA (学)ライブスポーツB	3 1 ② ②	3 1 ② ②	2 ② ② ②	10 12 14 ② ② ② ②	3 1 1 1 1 ② ② ②		10 10 10 10 10 ② ② ② ② ②		10 10 10 10 10 ② ② ② ② ②			
芸術	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ 音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ 音楽Ⅲ・美術Ⅲ・書道Ⅲ (学)音楽演習 (学)生活美術 (学)実用書道	2 ② ② ② ② ②			2 4 6 8 10 12 ② ② ②	2 2 2 2 2 ② ② ② ②		2 4 6 8 10 12 ② ② ②		2 4 6 8 10 12 ② ② ②		2 2 2 2 2 ② ② ② ②	芸術Ⅱは芸術Ⅰを、芸術Ⅲは芸術Ⅱを履修して いること。 また、同じ科目のみ選択できる。
外国語	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅰ 論理・表現Ⅱ 論理・表現Ⅲ (学)英語標準演習A (学)英語発展演習A (学)英語標準演習B (学)英語発展演習B	3 3 3 2 2 2 ② ② ② ②	3 3 4 2 2 2 ② ② ② ②		16 18 20 2 2 2 ② ② ② ②	3 3 3 2 2 2 ② ② ② ②		3 3 4 2 2 2 ② ② ② ②	16 18 20 2 2 2 ② ② ② ②		16 18 20 2 2 2 ② ② ② ②	2年次、標準演習Aと発展演習Aを両方選択するこ とはできない。 3年次、標準演習Bと発展演習Bを両方選択するこ とはできない。	
家庭	家庭基礎 (学)家庭演習		2 ②		2 4 ② ②		2 2 ② ②		2 4 ② ②		2 4 ② ②		
情報	情報Ⅰ (学)情報演習 (学)情報実習	2 ② ②			2 4 6 ② ②	2 2 ② ②		2 4 6 ② ②		2 4 6 ② ②		2 4 6 ② ②	
音楽	音楽理論 ソルフエージュ 器楽 (学)楽曲研究 (学)合奏・合唱												
学 スポーツ	(学)総合スポーツ基礎 (学)総合スポーツ発展 (学)専門実技 (学)専攻スポーツ実践 (学)トレーニング原理												
学 吹奏楽・合唱	(学)演奏研究・発表												
教科・科目の計		30	30	30	90	30	30	30	90				
総合的な探究の時間		1	1	1	3	1	1	1	3			総合	
特別活動 ホームルーム活動		1	1	1	3	1	1	1	3			志学	
総計		32	32	32	96	32	32	32	96				
選択の方法		文型 2年 ②の中から6単位(3科目)選択 3年 4●から4単位(1科目)選択 3年 ②の中から10単位選択				理型 2年 2▲の中から2単位(1科目)選択 3年 数学Ⅲ選択者は②から2単位(1科目)選択 3年 理系数学選択者は②の中から4単位(2科目)選択							

入学年度 種類 学年 学級数		令和6年度入学生										備考			
		アクティブ音楽コース					計	アクティブスポーツコース							
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		Ⅴ		
教科	学級数	6						6							
国語	現代の国語	2					12	2					12		
	言語文化	2					15	2					15		
	論理国語		2		3	3	17		2	2	3	3	17		
	古典探究		3	3			19		3	3			19		
	(学)国語演習		②						②						
	(学)古典演習				3						3				
地理歴史	(学)現代文演習			②						②					
	地理総合	2					4	2					4	2年次、日本史探究と世界史探究の 両方選択することはできない。 3年次文型、4●の中から1科目選択 2年次、日本史探究または世界史探究を選択 した場合は3年次も同じ科目を選択すること 日本史演習と世界史演習の両方選択 することはできない。	
	地理探究			4●			8				4●		8		
	歴史総合	2					10	2					10		
	日本史探究		②		4●		12		②		4●		12		
	世界史探究		②		4●				②		4●				
(学)日本史演習				②						②					
公民	(学)世界史演習			②						②					
	公民		2	2			4		2	2			4		
	政治・経済				2	2	6				2	2	6		
(学)公民演習				②						②					
数学	数学I	3					9	3					9		
	数学II		4	4			11		4	4			11		
	数学III						13						13		
	数学A	2					15	2					15		
	数学B		②	2			16		②	2			16		
	数学C					2						2			
	(学)数学総合														
	(学)数学IA演習				②						②				
	(学)数学IIBC演習				②						②				
	(学)数学IAIIB演習														
理科	(学)理系数学					3						3			
	物理基礎			2			6			2			6	3年次理型、4□の中から1科目選択 ただしそれぞれの基礎科目を選択していることが 必要である。	
	物理					4□	8					4□	8		
	化学基礎	2					10	2					10		
	化学					4	12					4	12		
	生物基礎	2					14	2					14		
	生物				4●	4□	16				4●	4□	16		
	地学基礎	2						2							
	(学)生物標準演習		②						②						
	(学)化学基礎演習			2						2					
(学)生物基礎演習				②						②					
保健体育	(学)地学基礎演習			②						②					
	(学)物理演習				②						②				
	(学)化学演習														
	(学)生物演習														
	体育	3	3	3	2	2	10	3	3	3	2	2	10		
	保健	1	1	1			12	1	1	1			12		
	(学)ライフスポーツA														
	(学)ライフスポーツB				②						②				
	音楽I・美術I・書道I	2					2	2					2		芸術IIは芸術Iを、芸術IIIは芸術IIを履修して いることが条件である。 また、同じ科目のみ選択できる。
	音楽II・美術II・書道II		②				4		②				4		
音楽III・美術III・書道III				②		6				②		6			
(学)音楽演習				②		8				②		8			
(学)生活美術				②		10				②		10			
(学)実用書道				②		12				②		12			
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3					16	3					16	2年次、標準演習Aと発展演習Aを両方選択すること はできない。 3年次、標準演習Bと発展演習Bを両方選択すること はできない。	
	英語コミュニケーションⅡ		3	3			18		3	3			18		
	英語コミュニケーションⅢ				4	4	20				4	4	20		
	論理・表現Ⅰ	2						2							
	論理・表現Ⅱ		2	2					2	2					
	論理・表現Ⅲ				2	2					2	2			
家庭	(学)英語標準演習A		②						②						
	(学)英語発展演習A		②						②						
	(学)英語標準演習B				②					②					
情報	(学)英語発展演習B				②					②					
	家庭基礎		2	2			2		2	2			2		
	(学)家庭演習				②		4				②		4		
情報I	2					2	2					2			
音楽	(学)情報演習				②		4				②		4		
	(学)情報実習				②		6				②		6		
	音楽理論		2	2			8								
	ソルフェージュ				2	2									
	器楽		2	2											
[学]スポーツ	(学)楽曲研究				1	1									
	(学)合奏・合唱				1	1									
	(学)総合スポーツ基礎								2	2			12		
	(学)総合スポーツ発展										2	2			
	(学)専門実技								2	2					
学吹奏楽・合唱	(学)専攻スポーツ実践								4	4					
	(学)トレーニング原理										2	2			
学吹奏楽・合唱	(学)演奏研究・発表		4	4			4								
	教科・科目の計	30	36	36	30	30	96	30	36	36	30	30	96	総合 志学	
総合的な探究の時間	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	3			
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	3		
総計		32	38	38	32	32	102	32	38	38	32	32	102		
選択の方法	2年 ②の中から4単位(2科目)選択														
	3年 4●の中から4単位(1科目)選択 ②の中から6単位選択														

教科	入学年度 類型 学年 学級数	令和5年度入学生								備考
		文型				理型				
		I	II	III	計	I	II	III	計	
国語	現代の国語	2			15	2			12	
	言語文化	2			17	2			17	
	論理国語		2	3	19		2	3	19	
	古典探究		3				3			
	(学)国語演習		②							
	(学)古典演習			3						
地理歴史	地理総合	2			8	2			4	2年次、日本史探究と世界史探究の 両方選択することはできない。 3年次文型、4●の中から1科目選択 日本史演習と世界史演習の両方選択 することはできない
	地理探究			4●	10				10	
	歴史総合	2			12	2			12	
	日本史探究		②	4●						
	世界史探究		②	4●						
	(学)世界史演習			②						
公民	公共		2		4		2		4	
	政治・経済			2	6			2	6	
	(学)公民演習			②						
数学	数学I	3			9	3			16	3年次理型、3☆2☆または3△ を選択すること。
	数学II		4		11		4		18	
	数学III				13			3☆	13	
	数学A	2			15	2			15	
	数学B		②		17		2		17	
	数学C							2		
	(学)数学総合			②						
	(学)数学I A演習			②						
	(学)数学II BC演習			②						
	(学)数学I A II B演習							2☆		
理科	物理基礎				6		2		16	3年次理型、4□の中から1科目選択 ただしそれぞれの基礎科目を履修している こと。
	物理				8			4□	18	
	化学基礎	2			10	2			20	
	化学				12			4	12	
	生物基礎	2			14	2			16	
	生物			4●	16			4□	16	
	地学基礎		2							
	(学)生物標準演習		②							
	(学)化学基礎演習						2			
	(学)生物基礎演習			②						
	(学)地学基礎演習			②						
	(学)物理演習							②		
保健体育	体育	3	3	2	10	3	3	2	10	
	保健	1	1		12	1	1		12	
	(学)ライフスポーツA		②		14				14	
	(学)ライフスポーツB			②						
芸術	音楽I・美術I・書道I	2			2	2			2	芸術IIは芸術Iを、芸術IIIは芸術IIを履 修していること。 また、同じ科目のみ選択できる。
	音楽II・美術II・書道II		②		4				4	
	音楽III・美術III・書道III			②	6				6	
	(学)音楽演習			②	8				8	
	(学)生活美術			②	10				10	
	(学)実用書道			②	12				12	
外国語	英語コミュニケーションI	3			16	3			16	2年次、標準演習Aと発展演習Aを両方選択 することはできない。 3年次、標準演習Bと発展演習Bを両方選択す ることはできない。
	英語コミュニケーションII		3		18		3		18	
	英語コミュニケーションIII			4	20			4	20	
	論理・表現I	2				2				
	論理・表現II		2				2			
	論理・表現III			2				2		
	(学)英語標準演習A		②				2▲			
	(学)英語発展演習A		②				2▲			
家庭	家庭基礎		2		2		2		2	
	(学)家庭演習			②	4				4	
情報	情報I	2			2	2			2	
	情報II			②	4			②	4	
	(学)情報実習			②	6				6	
音楽	音楽理論									
	ソルフェージュ									
	器楽									
	(学)楽曲研究									
[学]スポーツ	(学)総合スポーツ基礎									
	(学)総合スポーツ発展									
	(学)専門実技									
	(学)専攻スポーツ実践									
	(学)トレーニング原理									
[学]吹奏楽・合唱	(学)演奏研究・発表									
教科・科目の計		30	30	30	90	30	30	30	90	
総合的な探究の時間		1	1	1	3	1	1	1	3	総合
特別活動 ホームルーム活動		1	1	1	3	1	1	1	3	志学
総計		32	32	32	96	32	32	32	96	
選択の方法		文型 2年 ②の中から6単位(3科目)選択 3年 4●から4単位(1科目)選択 3年 ②の中から10単位選択				理型 2年 2▲の中から2単位(1科目)選択 3年 数学III選択者は②から2単位(1科目)選択 3年 理系数学選択者は②の中から4単位(2科目)選択				

令和6年度 大阪府立 香里丘 高等学校
全日制の課程 普通科 教育課程実施計画 (アクティブコース)

入 学 年 度	令和5年度入学生														備 考
	入 学 年 度	類 型	アクティブ音楽コース					計	アクティブスポーツコース					計	
			I	II	III	IV	V		I	II	III	IV	V		
教科	学 年	学 級 数	6						6						
国 語	現代の国語	2					12	2						12	
	言語文化	2					15	2						15	
	論理国語		2	2	3	3	17		2	2	3	3	17		
	古典探究		3	3			19		3	3			19		
	(学)国語演習		②						②						
地 理 歴 史	(学)古典演習				3						3				
	(学)現代文演習				②					②					
	地理総合	2					4	2					4	2年次、日本史探究と世界史探究の 両方選択することはできない。 3年次文型、4●の中から1科目選択 日本史演習と世界史演習の両方選択 することはできない。	
	地理探究				4●		8				4●		8		
	歴史総合	2					10	2					10		
日本史探究		②		4●		12		②		4●		12			
(学)世界史演習				②					②		②				
公 民	(学)日本史演習				②					②		②			
	公共		2	2			4		2	2			4		
(学)公民演習					②	6				②	②	6			
数 学	数学Ⅰ	3					9	3					9		
	数学Ⅱ		4	4			11		4	4			11		
	数学Ⅲ						13						13		
	数学A	2					15	2					15		
	数学B		②	2			16		②	2			16		
	数学C					2						2			
	(学)数学総合											②			
	(学)数学ⅠA演習					②						②			
理 科	(学)数学ⅡBC演習					②						②			
	(学)数学ⅠAⅡB演習											②			
	(学)理系数学					3						3			
	物理基礎			2			6			2			6	3年次理型、4□の中から1科目選択 ただしそれぞれの基礎科目を選択しているこ とが必要である。	
	物理					4□	8					4□	8		
	化学基礎	2					10	2					10		
	化学					4	12					4	12		
	生物基礎	2					14	2					14		
生物				4●	4□	16				4●	4□	16			
地学基礎	2							2							
(学)生物標準演習		②						②							
保 健 体 育	(学)化学基礎演習			2						2					
	(学)生物基礎演習				②						②				
	(学)地学基礎演習					②					②				
	(学)物理演習														
	(学)化学演習														
	(学)生物演習														
	体育	3	3	3	2	2	10	3	3	3	2	2	10	芸術Ⅱは芸術Ⅰを、芸術Ⅲは芸術Ⅱを履修 していることが条件である。 また、同じ科目のみ選択できる。	
	保健	1	1	1			12	1	1	1			12		
	(学)ライフスポーツA														
	(学)ライフスポーツB					②					②				
音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ	2					2	2					2			
音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ		②				4		②				4			
音楽Ⅲ・美術Ⅲ・書道Ⅲ						6				②		6			
(学)音楽演習					②	8				②		8			
(学)生活美術					②	10				②		10			
(学)実用書道					②	12				②		12			
外 国 語	英語コミュニケーションⅠ	3					16	3					16	2年次、標準演習Aと発展演習Aを両方選択する ことはできない。 3年次、標準演習Bと発展演習Bを両方選択する ことはできない。	
	英語コミュニケーションⅡ		3	3			18		3	3			18		
	英語コミュニケーションⅢ				4	4	20				4	4	20		
	論理・表現Ⅰ	2						2							
	論理・表現Ⅱ		2	2					2	2					
	論理・表現Ⅲ					2	2				2	2			
	(学)英語標準演習A		②						②						
	(学)英語発展演習A		②						②						
(学)英語標準演習B					②					②					
(学)英語発展演習B					②					②					
家 庭	家庭基礎		2	2			2		2	2			2		
	(学)家庭演習					②	4				②		4		
情 報	情報Ⅰ	2					2	2					2		
	情報Ⅱ					②	4				②		4		
	(学)情報実習					②	6				②		6		
音 楽	音楽理論		2	2			8								
	ソルフェージュ				2	2									
	器楽		2	2											
	(学)楽曲研究					1	1					1	1		
学 校 体 育	(学)合奏・合唱					1	1					1	1		
	(学)総合スポーツ基礎								2	2			12		
	(学)総合スポーツ発展										2	2			
	(学)専門実技								2	2					
	(学)専攻スポーツ実践								4	4					
(学)トレーニング原理										2	2				
学 校 吹 奏 楽	(学)演奏研究・発表		4	4			4								
学 校 合 唱															
教科・科目の計		30	36	36	30	30	96	30	36	36	30	30	96		
総合的な探究の時間		1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	3	総合	
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	3	志学	
総 計		32	38	38	32	32	102	32	38	38	32	32	102		
選 択 の 方 法		2年 ②の中から4単位(2科目)選択													
		3年 4●の中から4単位(1科目)選択 ②の中から6単位選択													

教科	入 学 年 度 類 型 学 年 学 級 数	令和4年度入学生							備 考	
		文型			計	理型				計
		I	II	III		I	II	III		
国語	現代の国語 言語文化 論理国語 古典探究 (学)国語演習A (学)国語演習B (学)国語演習C	2 2 2 3 ② 3 ②		3 3 ②	15 17 19 8 10 12	2 2 2 3 2 2		3 3	12	
地理歴史	地理総合 地理探究 歴史総合 日本史探究 世界史探究 (学)世界史演習A (学)日本史演習A (学)世界史演習B (学)日本史演習B	2 2 2 ② ② ② ②		4● 4● 4● ② ② ②	10 8 12 4 4 4 4	2 2 2 2▲ 2▲			4 6	2年次、世界史演習Aと日本史演習Aの両方選択することはできない。 3年次文型、4●の中から1科目選択 世界史演習Bと日本史演習Bの両方選択することはできない
公 民	公共 政治・経済 (学)公民演習		2	2 ②	4 6		2	2	4	
数 学	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 数学B 数学C (学)数学総合 (学)数学ⅠA演習 (学)数学ⅡB演習 (学)数学ⅠAⅡB演習 (学)理系数学	3 3 3 2 ②	4	②	9 11 13 15 17	3 4 2 2		3☆ 2☆ 3△	16 18	3年次理型、3☆2☆2☆または3△2△を選択すること。
理 科	物理基礎 物理 化学基礎 化学 生物基礎 生物 地学基礎 (学)生物標準演習 (学)化学基礎演習 (学)生物基礎演習 (学)地学基礎演習 (学)物理演習 (学)化学演習 (学)生物演習			④ ②	6 8 10 12 14 16		2 4□ 4 4□		16 18 20	3年次理型、4□の中から1科目選択 ただしそれぞれの基礎科目を履修していること。
保 健 体 育	体育 保健 (学)ライフスポーツA (学)ライフスポーツB	3 1	3 1	2 ②	10 12 14	3 1	3 1	2	10	
芸 術	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ 音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ 音楽Ⅲ・美術Ⅲ・書道Ⅲ (学)音楽演習 (学)生活美術 (学)実用書道	2		② ② ② ②	2 4 6 8 10 12	2			2	芸術Ⅱは芸術Ⅰを、芸術Ⅲは芸術Ⅱを履修していること。 また、同じ科目のみ選択できる。
外 国 語	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅰ 論理・表現Ⅱ 論理・表現Ⅲ (学)英語標準演習A (学)英語発展演習A (学)英語標準演習B (学)英語発展演習B	3 2	3 2	3 ② ② ②	16 18 20	3 2	3 2 2	4 2	16 18 20	2年次、標準演習Aと発展演習Aを両方選択することはできない。 3年次、標準演習Bと発展演習Bを両方選択することはできない。
家 庭	家庭基礎 (学)家庭演習		2	②	2 4		2		2	
情 報	情報Ⅰ 情報Ⅱ (学)情報実習	2		② ②	2 4 6	2		②	2 4	
音 楽	音楽理論 器楽 ソルフェージュ (学)楽曲研究 (学)合奏・合唱									
学 校 体 育	(学)総合スポーツ基礎 (学)総合スポーツ発展 (学)専門実技 (学)専攻スポーツ実践 (学)トレーニング原理									
(学)吹奏楽・合唱	(学)演奏研究・発表									
教 科 ・ 科 目 の 計		30	30	30	90	30	30	30	90	
総合的な探究の時間		1	1	1	3	1	1	1	3	総合
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	3	1	1	1	3	志学
総 計		32	32	32	96	32	32	32	96	
選 択 の 方 法		文型 2年 ②の中から6単位(3科目)選択 3年 ②または④の中から10単位選択			理型 2年 2▲の中から2単位(1科目)選択 3年 数学Ⅲ選択者は②から2単位(1科目)選択 3年 理系数学選択者は②の中から4単位(2科目)選択					

令和6年度 大阪府立 香里丘 高等学校
全日制の課程 普通科 教育課程実施計画 (アクティブコース)

教科	入学年 年度 学 年 学 級 数	令和4年度入学生										備 考			
		アクティブ音楽コース					計	アクティブスポーツコース					計		
		I	II	III	計	I		II	III	計					
国 語	現代の国語	2				12	2					12			
	言語文化	2				15	2					15			
	論理国語		2	2	3	17		2	2	3	3	17			
	古典探究		3	3		19		3	3			19			
	(学)国語演習A		②					②							
	(学)国語演習B				3					3					
地 理 歴 史	地理総合	2				4	2					4	2年次、世界史演習Aと日本史演習Aの 両方選択することはできない。 3年次文型、④の中から1科目選択 世界史演習Bと日本史演習Bの両方選択 することはできない。		
	地理探究				4●	8				4●		8			
	歴史総合	2				10	2					10			
	日本史探究				4●	12				4●		12			
	世界史探究				4●					4●					
	(学)世界史演習A		②					②							
公 民	公共		2	2		4		2	2			4			
	政治・経済				2	6				2	2	6			
	(学)公民演習				②					②					
	数 学	数学Ⅰ	3				9	3						9	
		数学Ⅱ		4	4		11		4	4				11	
		数学Ⅲ					13							13	
数学A		2				15	2					15			
数学B			②	2		16		②	2			16			
数学C															
理 科	(学)数学総合												3年次理型、4□の中から1科目選択 ただしそれぞれの基礎科目を選択しているこ とが必要である。		
	(学)数学ⅠA演習				②					②					
	(学)数学Ⅱ演習				②					②	2				
	(学)数学ⅠAⅡB演習											3			
	(学)理系数学														
	物理基礎			2		6			2			6			
	物理					8						8			
	化学基礎	2				10	2					10			
	化学					12						12			
	生物基礎	2				16	2					16			
	生物				④	4□					④	4□			
	地学基礎	2						2							
保 健 体 育	(学)生物標準演習		②					②							
	(学)化学基礎演習			2					2						
	(学)生物基礎演習				②					②					
	(学)地学基礎演習				②					②					
	(学)物理演習														
	(学)化学演習														
保 健 体 育	体育	3	3	3	2	10	3	3	3	2	2	10			
	保健	1	1	1		12	1	1	1			12			
芸 術	(学)アィフスポーツA										②		芸術Ⅱは芸術Ⅰを、芸術Ⅲは芸術Ⅱを履修 していることが条件である。 また、同じ科目のみ選択できる。		
	(学)アィフスポーツB				②										
	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ	2				2	2					2			
	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ		②			4		②				4			
	音楽Ⅲ・美術Ⅲ・書道Ⅲ					6				②		6			
	(学)音楽演習				②					②					
外 国 語	(学)生活美術				②					②					
	(学)実用書道				②					②					
	英語コミュニケーションⅠ	3				16	3					16	2年次、標準演習Aと発展演習Aを両方選択する ことはできない。 3年次、標準演習Bと発展演習Bを両方選択する ことはできない。		
	英語コミュニケーションⅡ		3	3		18		3	3			18			
	英語コミュニケーションⅢ				4	4				4	4	20			
	論理・表現Ⅰ	2				2	2					2			
論理・表現Ⅱ		2	2				2	2			2				
論理・表現Ⅲ				2	2				2	2					
家 庭	(学)英語標準演習A		②					②							
	(学)英語発展演習A		②					②							
家 庭	(学)英語標準演習B				②					②					
	(学)英語発展演習B				②					②					
情 報	家庭基礎		2	2		2		2	2			2			
	(学)家庭演習				②					②		4			
音 楽	情報Ⅰ	2				2	2					2			
	情報Ⅱ				②					②		4			
音 楽	(学)情報実習				②					②		6			
	音楽理論		2	2		8						8			
音 楽	器楽		2	2											
	ソルフェージュ				2	2									
音 楽	(学)楽曲研究				1	1						1			
	(学)合奏・合唱				1	1						1			
学 校 ス ポ ル ト	(学)総合スポーツ基礎							2	2			12			
	(学)総合スポーツ発展									2	2				
学 校 ス ポ ル ト	(学)専門実技							2	2						
	(学)専攻スポーツ実践							4	4						
学 校 ス ポ ル ト	(学)トレーニング原理									2	2				
	(学)演奏研究・発表		4	4		4						4			
教 科 ・ 科 目 の 計		30	36	36	30	96	30	36	36	30	30	96			
総 合 的 な 探 究 の 時 間		1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	3			
特 別 活 動	ホームルーム活動	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	3	総合 志学		
総 計		32	38	38	32	102	32	38	38	32	32	102			
選 択 の 方 法		2年 ②の中から4単位(2科目)選択													
		3年 ②または④の中から6単位選択													